

# 教育センターだより

平成26年度 第8号(11月27日発行)

鳥取県教育センター 〒680-0941 鳥取市湖山町北5丁目201番地  
TEL 0857-28-2321(代表) FAX 0857-28-8513  
【URL】 <http://www.torikyo.ed.jp/kyoiku-c/> 【E-Mail】 [kyoikucenter@pref.tottori.jp](mailto:kyoikucenter@pref.tottori.jp)



いいとこどり

## 研修講座実施後アンケート回答 大特集

### 【環境教育】「演劇ワークショップで学ぶ環境教育」

■期日：平成26年10月10日(金)  
■講師：劇団衛星代表 蓮行氏  
■会場：上灘公民館

○専門性は高いけれど社会に出て職能に活かすことができない人が多い(増えている)というのは学校でも感じるところです。演劇というものの、またはその部品が、アドリブの力、自活的な学び、モチベーションを高めるのに役立つのだということを認識できたように思います。インプットを大切に、納得解を探る、動的な情報を得て動的判断ができるように、などなど、日々の教育活動で心がけていきたいと思いました。(小学校)

○講義の中に「不親切グラフ」、「インプット・アウトプット」など理論的な内容が含まれていて、興味深く聞きました。また、「デザイン力」については今後身に付けたいと思いました。仕事上も演技力は重要な要素(身に付けたい力)だと思います。直接生徒は指導しませんが、校務分掌で環境教育に所属しています。事務室として学校全体のECOに関わっています。今日の研修で学習した内容を生徒や職員に演技力を持って説明したいと思います。(中学校)

○ポジティブトラウマをたくさん作れるようなゴールの設定について考えることができ、満足しました。インプットが大切であるということなので、生徒と対話するときにも、自分の中にかみ砕いてからアウトプットしたいと思いました。正解だけを求めてしまいがちなので、適切解が出せるような幅のある授業をしたいと思いました。(高等学校)

○不親切グラフを念頭におき、日ごろの支援を考え、振り返りたいと思いました。逆算ベクトルの手法も子どもたちに紹介したいし、正解ではない最適化も子どもの状況に応じて考えていきたいと思います。(特別支援学校)



## 【ふるさと講座】「感じよう、因州和紙の伝統と魅力」

■期日：平成26年10月17日（金）  
■講師：長谷川憲人製紙代表 長谷川憲人氏  
いなば和紙協業組合総務部長 房安寿美枝氏  
■会場：あおや和紙工房

○夢中になって時間を忘れ、作品作りに没頭させていただきました。地域の方々の和紙への思い、そして、その伝統を後世に残すために様々な取組をされていることを知り、再び我が県、足元を見直し、子どもたちに紹介したいと思いました。特別支援学級の授業、美術部の活動、国際理解教育など、いろいろな場面で活用できそうです。親子行事で体験することもできそうです。（中学校）

○これまで因州和紙のよさを知らなかったが、質が高く、多くの可能性を秘めているということも知ることができてよかったです。また、実際に紙をすき、作品も作ることができ、今後の実習の参考になりました。保育実習で、紙すき、ちぎり絵、折り紙などをしようと思います。それにより、工業高校の生徒が和紙の可能性を広げてくれたらうれしいと思います。（高等学校）

○同じ紙で折っても、和紙で折ると表情が出てくるような気がしました。新しい発見でした。折り紙でひとつの作品が作れて、満足感が味わえるので、寄宿舎の活動の中でも取り入れていきたいと思いました。集中して取り組めること、一人一人のやり方があり、それぞれのやり方でいいのだということがとても魅力で、また、楽しいと感じました。（特別支援学校）

○素材としての和紙について学び、その感触を味わいながら、材料のよさを活かした創作活動ができたことは貴重な体験でした。折り紙を苦手としていたので、子どもたちにあまりさせてあげていなかったが、今回取り組んだおかげで折り紙のすばらしさを再確認できました。このようなワークショップ形式の研修をたくさん取り入れてほしいと思います。（保育園）

○「ふるさと講座」の名のとおり、ふるさとの伝統工芸を知り、そのよさに十分ふれることのできる研修でした。実際に見て触れて、素晴らしいものが受け継がれていることに感動しました。社会科の学習の中で、鳥取の産業のひとつとして因州和紙を取り上げたいと思います。図工等の学習で素材を活かした作品作りに取り組みたらと思いました。（小学校）

○紙すき体験が非常によかったと思います。子どもたちにも体験させ、鳥取を大すきになってほしいと思いました。例えば3、4年生の地域学習「発見！大すき鳥取」の中に組み込み、社会見学として体験活動を考えたいと思いました。（小学校）

○集中して作品を作ることができ、しかも楽しい時間でした。保健室登校の児童に小さな作品を作らせて、楽しさと集中することを体験させたいと思います。人間性の幅を広げる、今回のような研修をたくさん企画してください。（小学校）



## 【校長研修】「命の輝きを伝える旭山動物園」

■期日：平成26年10月20日（月）  
■講師：旭川市立旭山動物園園長 坂東元氏  
■会場：上灘公民館

○動物の生き方をおして、命をつなぐ→命を伝える→生きること、を考える時間になりました。「今は今のためではなく、未来のために」、「今を諦めないこと」、「今を受け入れてしまわないこと」、このことを自分なりに考えていこうと思います。  
(高等学校)

○「視点」をどこに置くかを学びました。誰を主体にして何を大切にしていくか。「～らしさ」を大切に。ハード面も大切だが、つないでいくのはソフト（人）だということ念頭に置いておきたいと思いました。「動物の尊厳を傷つけないこと」、「心から伝えたいこと」などの言葉から、大切なことがぶれないようにしたいと思いました。大切なことがぶれない指導、子どもの力を決めつけないこと、～らしさを伸ばすこと等を念頭に置いて学校づくりをしていきたいと思いました。（特別支援学校）

○命の尊厳について教えていただきました。「ありのままが美しい」、「できることから始めよう」、「心が動くから人は動く」等々、経験から生まれたすばらしい言葉をたくさんいただき、学校が忘れてはならないものを改めて感じることができました。職員にもぜひ、折にふれ伝えていきたいと思いました。「今を諦めないこと、今を受け入れてしまわない」ということは生き方に加えていきたいと思いました。子どもの可能性を引き出し、向上させていくという使命感を我々教師が持つことを職員と共有し、実践に活かしていきたいと思いました。（小学校）

○理念さえ貫かれていればよいという串刺し型の発想は、教職員の組織作りでも有効かと思えます。「思いを伝える。具体化する」ことを大切に、プロジェクトを立ち上げられる柔軟性を作りたいと考えます。（小学校）

○子どもの個性、能力を十分に発揮させることができる環境とはどういうことか考えさせられました。安全・安心との兼ね合いが難しいが、子どもの側に立って、子どもと一緒に環境を作る視点が必要だと感じました。「串形の組織」のイメージが中学校にも必要だと思いました。組織の中で職員の持つ能力を最大限に発揮できる仕組み作りを考えるヒントになりました。（中学校）

○環境の重要性を再認識しました。安心・安全を迫り続ける社会への強烈なアンチテーゼのようにお聞きしました。学校においては、特に安全・安心の完璧さを求められるのですが、その中で発揮されない能力や表出できない感性が眠っていることも考えないといけないことが分かりました。全てを大人のエゴで解釈していないか、再度見直してみることも大切だと思いました。命の尊さについて学ぶ機会はありませんが、動物に関する命、そして生命観それをどう伝えていくのか、死と向き合うことの厳しさを子どもたちにどう実感させられるのか、動物園等での壮絶な営みに触れさせることも考えてみたいと思いました。（中学校）



## 【伝統文化】「狂言の魅力にふれよう」

■期日：平成26年10月24日（金）  
■講師：能楽師狂言方 善竹隆司氏  
■会場：倉吉未来中心

○昨年に続き参加したが、二番煎じで退屈なことはひとつもなく、体の使い方、声の出し方、狂言そのもののありよう等、改めて学ぶことが多かったと思います。明日からの指導にどう活かすかと言うより、私という人間の幅や深さに活かせることであり、それが子どもに反映されていくのだと思います。（特別支援学校）

○午前中の講義では講師の先生の語り口もおもしろく、興味深く聞かせていただきました。午後の演習では実際に演じる場面もあり、とても楽しく参加することができました。幼稚園では、発表会として演劇を行うのですが、所作やセリフの言い回しなどの指導に活かされればと思います。個人的にも、日本の伝統文化にふれることができ、また機会があれば実際に狂言を見に行きたいと思いました。（幼稚園）

○「狂言」というものをよく知らなかったもので、それが少しわかりました。歴史的なこともわかり、狂言を身近に感じられました。学んだ声の出し方、動きなどを、ふだんの生活の中で、また学習発表会などでも指導する際に伝えたいと思います。また、狂言を紹介することで、日本の文化を一緒に感じたいと思います。こういった講座は毎年行ってほしいと思いました。（小学校）

○昨年度の授業研究で「能」を体験しました。それから伝統芸能に関心が深まっており、今日の研修も大変有意義なものとなりました。狂言の発声はいわゆる腹式呼吸で教科の発声にもしっかりつながるので、実践していきたいと思います。（中学校）

○文化について深く学ぶ機会は少ないので、教育センターの研修で企画していただき、興味深く学びました。社会科で「能」「狂言」を扱うので、わかりやすく説明できます。部活動で剣道を教えていますが、武士が「狂言」を好む理由が理解でき、剣道の指導にも活かせると思います。（中学校）

○所作や発声等、授業などで使えそうな場面を考えることができました。「狂言」を鑑賞することは苦手でしたが、今回で親しみを持つことができたので、授業に活かしたいと思いました。和楽器の授業や合唱の発音や呼吸法にもよいヒントを得られたように思いました。今回は初めての体験でしたが、また機会があれば参加したいと思います。（高等学校）

○狂言を実際に見たのは高校生の時で、約30年ぶりに実際に体験でき、とてもよかったです。「能」「狂言」は中世（室町時代）の単元で扱うが、教科書に書かれていることしか説明できませんでした。今日の研修で学んだことを活かして、もっと具体的に、また、現代の文化と重なることが多くあることを授業の中で生徒に伝えたいと思いました。（高等学校）

○狂言のこと、立ち居振る舞いの意味など、とても納得して聞くことができました。新しい世界が広がり、もっと勉強したくなりました。音楽の授業、学習発表などで活かしていきたいと思います。いつも鳥取県のバラエティーに富んだ研修を楽しみにしています。このような連携を今後とも継続してほしいと思います。（島根県）



アンブローズ・ビアスの辞典ではない。以下は「あくまで私見」である。

- 【う】 運営  
事故を起こさない安全運転。それ自体とても難しいことだが、現状維持的な面もある。
- 【お】 教える  
学校教育では、子どもたちに求めていることを私たち自身が実践すること。
- 【が】 学習  
概念的葛藤を生じることから始まる。これは何だろう？ どういうことだろうと思うことができればしめたもの。
- 【が】 学校  
暴力によらない方法で物事を解決することを学ぶところ。
- 【き】 危機管理  
大きくふたつに分けられる。ひとつは、リスク管理であり、想像力が重要な鍵となる。  
いまひとつは、クライシス管理であり、対処したその危機を転回点として、希望に向かう舵を大きく切らなければならない。
- 【き】 教育相談  
糸電話の糸に似ている。引っ張りすぎると共鳴紙が敗れ、緩みすぎると聞こえない。
- 【き】 教育の原点  
一対一対応。子どもに個別対応する家庭教育が教育の原点である。
- 【け】 経営  
革新的運営。昨日の自分も疑う必要がある。
- 【こ】 コンプライアンス  
求めに応じるということ。学校教育においては誰が誰に何を求めるのか。周囲の人々が私たちに、教職員として恥ずかしくない言動を求めている。周囲の人々とは児童生徒であり、その保護者や地域の人々であり、同僚であり、そして私たちの友人や家族である。
- 【し】 質実剛健  
「まじめに努力して何が悪い」と居直る力を持っていること。
- 【じ】 情報  
他との相違。みんな同じなら漏洩しても怖くない。
- 【つ】 通信制課程  
「通信」という熟語にはレ点を打ち、生徒同士、また生徒と教職員が「信（まことの心）を通わせ」、生徒は卒業への「信念を通す」と読む。
- 【て】 定時制課程  
生徒自身が、「(自分の学ぶ) 時を定め」、「定められた時（期間）の中で学ぶ」ところ。
- 【と】 特色ある学校  
その学校で児童生徒が何にがんばっているか。そのがんばっている内容が学校の特色である。
- 【ひ】 開かれた学校  
学校を開く方法はいくつかある。いつも正門を開放しているなどの物理的方法。学校図書館を地域に開放しているなどの制度的方法。頻繁にホームページを更新するなどの発信的方法。  
そしてもうひとつ。校長が教職員の心を開く。教職員は児童生徒の心を開く。児童生徒は登下校の途次、地域の方々の心を開き、帰宅後は保護者の心を開く。そのような学校も「開かれた学校」と言っていと思う。  
そのためにも、教育委員会事務局職員が学校の心を開くことを忘れてはならないと思う。
- 【ぶ】 文武両道  
学んで繊細な心模様を獲得し、必要な時には果敢に富んだ行動もできること。
- 【ほ】 本監査にて監査委員に問はれて答へて曰く
  - 管理職研修について問ふ。そも学校管理職の備ふべきものとは何ぞや。  
→ 誠意と哲学なり。
  - 教職員研修においては何をめざさんとするか。  
→ 自主とOJTなり。  
なほ、教職員は日々これ研修するものにて、己がくらしそのものぞ学びなるとこそ教育公務員特例法にも言へれ。ただし、ワークライフバランスを意識すべきは言はずもがなのことなり。

